

## 第120回古民家歴史部会歴史探訪

「東海道の宿場探訪シリーズ・第15回」

平成29年9月6日(水) 「藤沢宿(2)」

集 合：JR藤沢駅改札口(2階) 9時50分集合(時間厳守)

(1)行 程：下記探訪先に同じ

(2)食事場所：自由行動

(3)探訪 先：JR藤沢駅=(小田急・江ノ島線乗り換え)=(相模大野方面へ1駅戻る)=  
=藤沢本町駅下車(スタート)

- ① 真源寺：藤沢本町駅出口から徒歩2分、浄土宗の寺、本尊は阿弥陀如来。
- ② 上方見附跡：藤沢宿の京側の出入り口の跡(標識のみ)
- ③ おしゃれ地蔵：養命寺前の小さな堂に安置されている道祖神。女性の願い事なら何でも叶えてくださり、満願にはお白粉を塗ってお礼をするという言い伝えから。
- ④ 養命寺：曹洞宗の寺。本尊は薬師如来坐像。藤沢七福神の“布袋尊“
- ⑤ 本願寺：浄土宗の寺。本尊は阿弥陀如来。
- ⑥ 柏山稻荷神社：柏山公園に隣接して鎮座する。引地川を堰き止める水門の守り神。
- ⑦ 城(タテ)神明社：城(タテ)の神明さんと親しまれている。境内に大小の道祖神・庚申塔が集められている。
- ⑧ 大山道道標・四谷不動堂：「これより大山みち」と書かれた道標が収められているお堂があり、道標の上には大山不動尊が鎮座している。
- ⑨ 一里塚：ここは「辻堂・四谷の一里塚」で、江戸からの里程は、13里という。
- ⑩ ニッ谷稻荷・更新供養塔：江戸時代、大山詣での帰りの休憩所として、2軒の茶屋があり、地名も「ニツ家」→「ニッ谷」となったようだ。

以上

# 東海道歴史探訪15 藤沢宿(2)

2017.9.6



## 辻堂駅周辺の再開発

辻堂駅周辺が注目され始めたのは、2011年に駅北口一帯が改修され「湘南C-X」と呼ばれる地区が整備されたところから。2002年に関東特殊製鋼が工場の全面撤退を表明したのち、工場跡地を含む約25ha（東京ドームの5.3倍）の区域を活かすべく、都市ならではの利便性を持つエリアを目指し再開発が進みました。

- ・研究開発を行う企業の本社や施設がまとまる「業務産業関連機能ゾーン」
- ・大規模病院である「湘南藤沢徳洲会病院」を中心に、フィットネスクラブなどが集まるココカラ辻堂などがある「医療・健康増進機能ゾーン」
- ・地域の中核をなす行政や公共サービスや公園などがある「広域連携機能ゾーン」
- ・商業やアミューズメントスポットをメインににぎわいと交流を育み、都市型住宅も建設されている「複合都市機能ゾーン」

こうしてみると、街の活気を生み出すと同時に地元住民の生活の質も向上させる、非常にバランスのとれたエリアであることが分かります。また、利便性を追求するばかりでなく街並みの統一感や景観を大切にしており、建物を建設する際にも富士山の眺望を損なわないよう配慮されるなど、景観美を守る意識も高いようです。